

読書のすゝめ

その 37

H 29

1 / 10

丁酉（ひのととり）

あけましておめでとうございます。
平成29年（2017）、穏やかな年明けとなりました。みなさんはどんな願いごとをしましたか？ また、どのような年にしようかと決意しましたか？
すべての人に等しく時は与えられています。限りのあるのもまた事実です。どんなにささやかでも『目標』をもって一日、一年、一生を送りたいと思います。

今年度も残り3ヶ月となりました。今月末にも60冊ほどの図書が入ります。一人でも多くの人に、一冊でも多く心に残る本を提供できるように、みなさんの希望と利用に沿った選書をすすめていきたいと思えます。

芥川賞・直木賞候補作

直木賞候補の本は図書館にありますので、ぜひあなたの直木賞を選出してみてください！
選考会は1月19日（木）です。

芥川賞

- ・『キャピタル』 加藤秀行
- ・『ピニール傘』 岸 政彦
- ・『縫わんばならん』 古川真人
- ・『カブールの風』 宮内悠人
- ・『しんせかい』 山下澄人

直木賞

- A 『十二人の死にたい子どもたち』 冲方丁
- B 『夜行』 森見登美彦
- C 『蜜蜂と遠雷』 恩田陸
- D 『また、桜の国で』 須賀しのぶ
- E 『室町無頼』 垣根涼介

直木賞候補作（あらすじ） 参考まで

- A タイトルの元ネタは『十二人の怒れる男』。内容は12人の陪審員たちがある殺人事件の評定を下すまでの議論を描いたものです。本作の内容も議論する形となっていますが、議論課題は、死を願う12人の子供たちが「自殺を執行するか否か」。果たして結論は？
- B 旅の夜の怪談に、青春小説、ファンタジーの要素が織り込まれた小説。主人公6人たちは10年前に消えてしまった「長谷川さん」に会うために怪談話をしていく。
- C 国際ピアノコンクールを舞台としたものです、とある4名の参加者がピアノコンクールを通して成長していく様子が描かれています。
- D 舞台は第二次世界大戦直前。ポーランドの日本大使館に外務書記生として赴任した慎は、ナチスに蹂躪されていく国と友を助けるため行動します。戦争の生々しさなども描かれています。
- E 「応仁の乱」以前の室町時代が舞台です。才蔵が十二歳から三十歳頃までひた走り世直しする様子が描かれています。実在した京警護役の骨川道賢、一揆首謀者の蓮田兵衛も出てくるので日本史が好きな方にもよいかもしれません。

新聞書見台！

小室副技師さん手作りの、「新聞書見台」が図書館に入りました。木のぬくもりがほっとするすばらしい書見台です。
みなさんの利用を待っています！



冬休み中に借りた本の返却を忘れずに！
3年次生は自由登校前には必ず返却してください。

